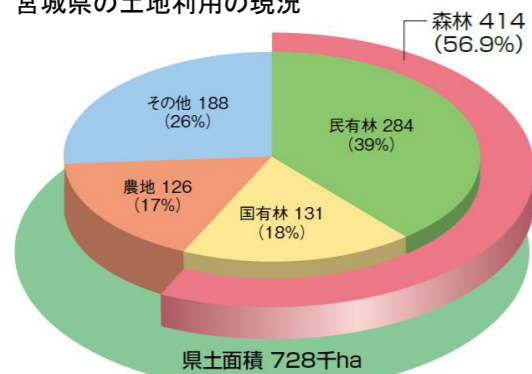


## 宮城県の森林、林業・木材産業の現状

- 我が県の森林面積は41万4千haで、県土面積の約57%を占める。
- 民有林では、収穫の目安となる41年生（9年齢級）以上の人工林の面積が8割を占める。
- 県内の山元立木価格（スギ）は、近年は3,000円/m<sup>3</sup>程度と低迷しているが、令和3年では上昇に転じた。
- 合板工場、大型製材工場、製紙工場等の立地により、豊富な木材（素材）需要がある（全国第5位）。
- 年間の素材生産量は69万m<sup>3</sup>（令和4年次）と生産活動は活発（全国第10位）。
- 県内の林業就業者数は、令和2年国勢調査で1,449人と前回平成27年度調査から横ばい。

### (1) 宮城県の土地利用の現況



資料：宮城県資料



▲ 県内の森林

### (2) 地域森林計画対象民有林の樹種別面積

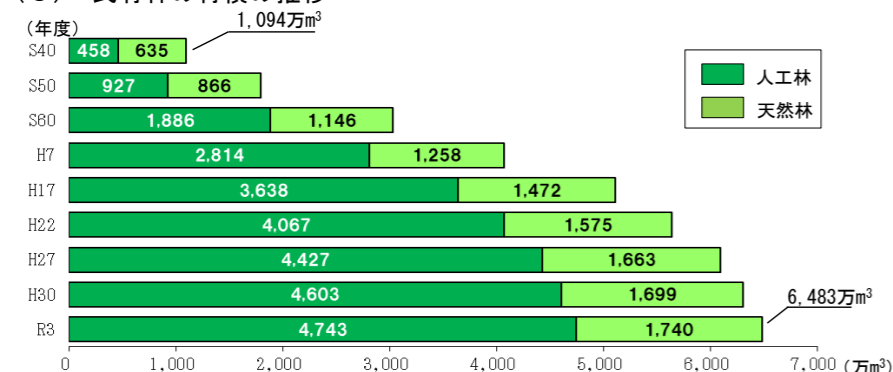
(単位：ha)

区分	総数	人工林								天然林			竹林	無立木
		スギ	ヒノキ	マツ	カラマツ	その他針葉樹	広葉樹	マツ	その他針葉樹	広葉樹				
面積 (ha)	282,785	149,825	107,110	7,531	29,811	3,462	47	1,864	124,030	7,668	94	116,268	1,872	7,058
構成比 (%)	100.0	53.0	37.9	2.7	10.5	1.2	0.0	0.7	43.9	2.7	0.0	41.1	0.7	2.5

※地域森林計画対象民有林の対象森林面積であるため、上記円グラフとは一致しない

資料：宮城県資料

### (3) 民有林の材積の推移

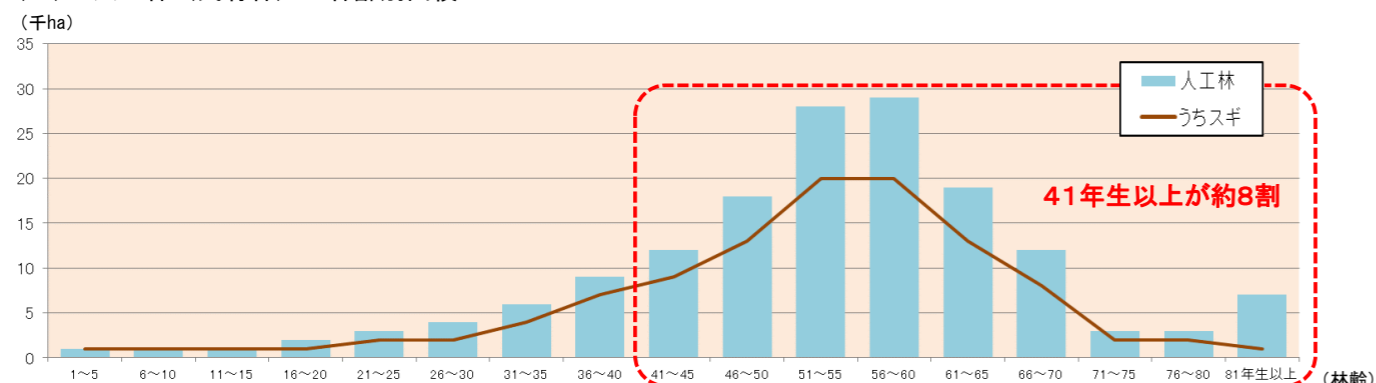


▲ 利用期を迎えたスギ人工林

資料：宮城県資料

森林の材積は年々増加し、昭和40年の約6倍となっている。

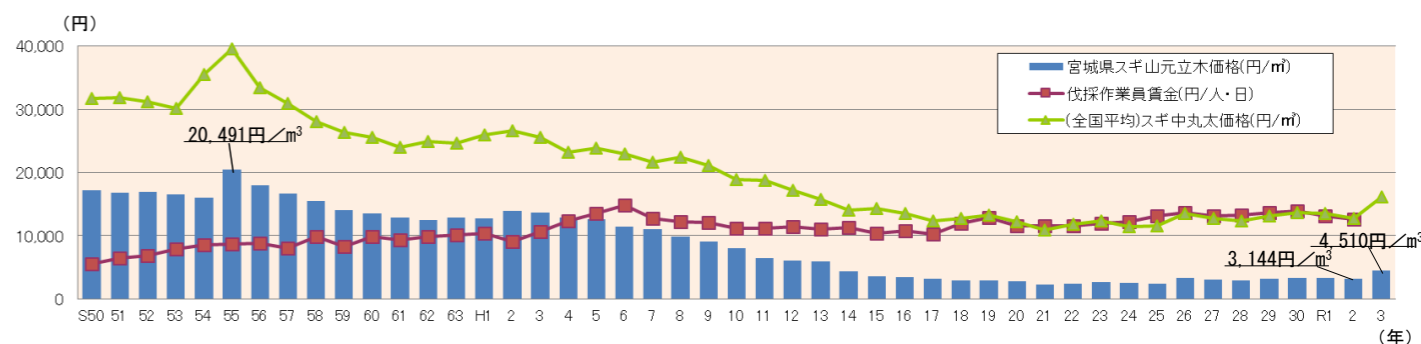
### (4) 人工林（民有林）の林齢別面積



資料：宮城県資料

戦後植栽された人工林が本格的な収穫の時期を迎えている。

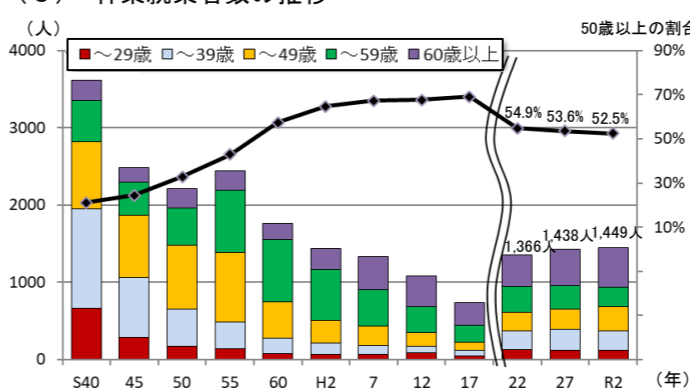
### (5) 山元立木価格の推移



資料：山元立木価格（一財）日本不動産研究所「山林素地及び山元立木価格調」、伐採作業員賃金 林野庁「森林・林業統計要覧」、スギ中丸太価格 林野庁「森林・林業白書」、農林水産省「木材需給報告書」

山元立木価格は昭和55年以降長期的に低下し、近年では昭和55年のピークの1/6以下で推移している。なお、ウッドショック等の影響により、令和3年の山元立木価格は上昇に転じている。

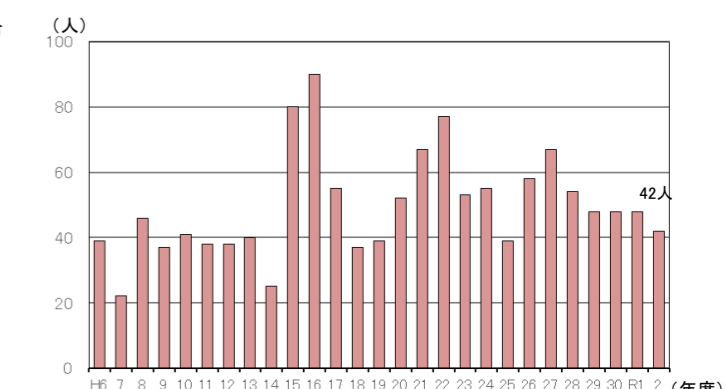
### (6) 林業就業者数の推移



資料：国勢調査

※平成22年度から集計方法が変更されたため、平成17年までの調査結果との連続性はない

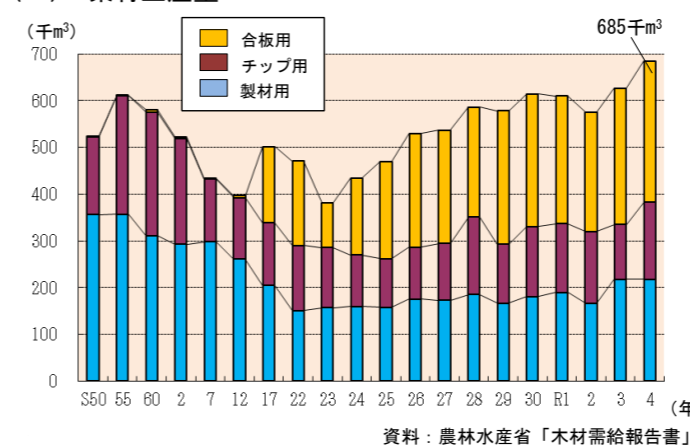
### (7) 新規林業就業者数の推移



資料：宮城県資料

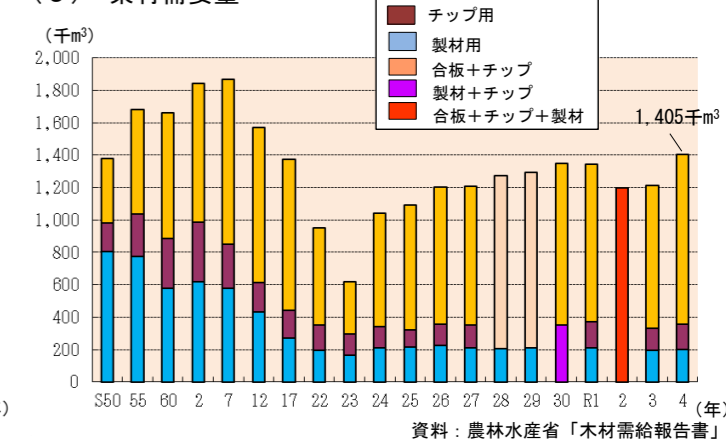
県内の林業就業者は長期的に減少傾向にあり、新規林業就業者は近年50人前後で推移している。

### (8) 素材生産量



資料：農林水産省「木材需給報告書」

### (9) 素材需要量



資料：農林水産省「木材需給報告書」

※平成28・29年は合板用とチップ用の区分が非公表であったため、合算値で算出  
平成30年は製材用とチップ用の区分が非公表であったため、合算値で算出  
令和2年は合板用・チップ用・製材用の区分が非公表であったため、合算値で算出

素材生産量は増加傾向にあるが、素材需要量の半分程度に留まっている。

### 【課題】

- 「木を使い、植え、育てる」循環の仕組みの定着（伐採後の再造林率は2割程度）。
- 森林整備や木材生産の拡大に向け、新規就業者の確保や就労環境の改善、林業事業者の経営基盤の強化など。
- 県産木材の安定供給体制の構築や新たな利用の推進(素材需要量140万5千m<sup>3</sup>に対し、生産量は約69万m<sup>3</sup>と半分程度)。